

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森2273番地		
自己評価作成日	平成27年8月26日	評価結果市町村受理日	平成27年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2192800015-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2192800015-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざすやさしさ、やすらぎ、信頼をモットーとし、職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。また利用者が残された力を発揮し、おやつ作りや、洗濯物の片付けなどをおこなっていただき、また、その人が出来る事をみつけて継続してできるように支援し、いきいきとした生活がおくれるように努めています。入浴は温泉を利用し、寝たきりの方にも入浴を楽しんでいただいています。訪問歯科診療があり、義歯の調整や口腔ケアにも力を入れており、食べることの楽しみや嚥下機能をいつまでも維持していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の目前に、交流会館や総合病院があり、地域の有用な社会資源が点在している環境にある。建物内に訪問歯科診療所がある。月に2回、医師の往診があり、歯科衛生士が常駐している。利用者の適切な口腔ケアで、食べる力や飲み込む力の改善、誤嚥予防に効果을上げています。運営推進会議の構成員は、行政を始め、地域の複数の役職者が毎回加わり、透明な運営と会議本来の機能を発揮している。管理者・職員は、利用者の信頼を築きながら、残存能力を活かし、生き生きと安心して暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置き介護サービスが提供できるように、会議やミーティングなどで、確認し共有できるよう努めている。また事業所の理念は職員の名札に記入したり、見やすい場所に掲示したりして、意識付け、確認をおこなっている。	理念は、職員の名札に明記し、会議の中でも実践を振り返り、共有をしている。地域に根ざし、利用者との信頼関係を築き、残された能力を引き出しながら、安らぎのある暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には地域のボランティアの方に訪問していただいたり、地域の祭りには、神輿や太鼓、獅子舞など、施設に訪問して下さり、祭りなどを楽しんでいただいている。	市の広報紙や回覧板が回り、祭りや清掃、公民館の掃除、防災訓練などに参加をしている。ボランティアの訪問も多く、高校生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議においては、認知症の事例などをとりあげ、参考にさせていただいたり、高校生の実習などの受け入れもおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の推進会議を開催し、家族、民生委員、市役所の方々に参加していただき、意見や情報を伺っている。制度改正の時には、市役所の方より、家族にも説明していただいている。	会議は、定期に開催している。行政担当者からは、制度改正や最新情報の報告がある。委員のリーダーが、出席者の意見や要望が出やすいように進行役を勤めている。そこでの意見は、できるものから改善や運営につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に行政と連絡を取り合い、情報交換をおこない協力関係が築けるよう努めている。また研修会の会場を提供し、地域のケアマネさんとともに学習の場を設けている。	市主催の研修会で、協力関係がある。地域包括支援センターからは、随時訪問があり、情報を共有している。利用者の経済的な課題は、福祉課に相談し、サービスの改善は書面で行い、運営の実情は、その都度、報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容については、勉強会で職員全体が理解できるようにしている。また日々のミーティングや担当者会議などで、取り上げ身体拘束をしない介護を心がけている。	身体拘束についてのマニュアルを整え、定期的に学習をしている。安全上、止むを得ない場合の対処法を、家族と連携しながら、職員間で共有している。また、利用者を言葉による抑制で混乱させないように、穏やかな声かけで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会などで精神的、身体的、言葉による虐待防止の理解を深め、防止を徹底している。		

岐阜県 グループホーム ファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	後見人制度を利用されている利用者がみえるため、その制度の内容などを学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の方針、内容などについて十分説明し、納得していただいた上で契約をかわしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員などが、意見や思いを聞きやすいように、日頃からコミュニケーションを上手くとりようとしている。	運営推進会議や家族の訪問時に、意見や要望を聞くようにしている。また、家族向けの定期通信で暮らしぶりを伝えている。職員の名札の改善や利用者の新聞や本が読みたいとの要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、随時のミーティングにて職員から、意見や要望を聞き、解決策などを話し合い、方針などを決めている。	管理者は、月例の会議で、意見や提案を話し合っている。勤務シフトの調整や託児所を設けるなど、働きやすい環境を整えている。吸引手法、褥瘡対策など、職員からの提案やケアの改善を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務のシフト状況や休暇のとり方などを把握し、また人間関係などで、ストレスになっていないかなど知るようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を設けて職員のスキルアップを目指している。施設外研修に参加できるようにしたり、終了後も発表の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を作れてはいないが、施設見学や、電話での情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より本人の生活情報を家族より聴取し、入所後も本人の要望や思いを話しやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される家族が、本人に対して困っていること、不安なことなどを、よく聞き取り把握して、入所前から信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談を受けてから、何が必要か、本人や家族から十分なアセスメントをおこない、適切な支援ができるようにこころがけ、サービスに反映するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人間性や性格、力量に配慮しながら、職員は利用者と同じ目線、立場で支援していけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や思いについて家族に意見を伺うことで、家族と共に支援しているという関係を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人の方や、近所の方々が、気軽に来ていただけるように、明るい雰囲気作りに努めている。図書館などの外出支援もおこなっている。	子どもや孫、知人の訪問が継続的にある。馴染みの図書館や美容院、地区の老人会にへ出かけている。また、ドライブを兼ねて、懐かしい風景に触れている。法人合同のイベントでは、利用者同士の新たな関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入って良好な関係が保てるように配慮している。全体行事などで、各フロアの利用者同士がふれあう場を設けて交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他の施設に入所された時にはサマリーなどの情報提供をおこない、本人の介護に役立つように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の行動や会話などから得た情報を職員間で共有し、本人の意向にそうようカンファレンスで検討し、対応している。	本人との会話や行動を観察し、思いや意向を把握している。意思表示ができない人は、利用者の五感に働きかけ、その反応で汲み取り、家族からも情報を得ている。それらを、職員間で共有し、その人らしい暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやサマリーなどを活用したり、家族や利用者に話を聞いたりして、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当が訪室し、話を聞いたり、介護記録や申し送りノートを活用して、心身の状態や状況を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望や意向、職員からの情報を元に介護計画を作成している。カンファレンス実施後はケアが統一してできるように努めている。	介護計画は、事前に、本人・家族の意向を確認している。また、サービス担当者会議で、症例を検証し、計画に反映させている。利用者の意欲を刺激し、歩行の維持と転倒予防など、安全に暮らせるように、介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他に介護日誌、申し送りノート、特記記録に記入することで、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望や意見を尊重し、状況に応じて、柔軟な支援がおこなえるようにしている。		

岐阜県 グループホーム ファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回、寺の住職による講話を催している。行事には地域のボランティアの方が歌や踊りなどを披露してくださり、楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診をおこなっていただいている。体調の変化にあわせて報告して、指示をいただいている。かかりつけの専門医での受診がある時は通院の支援をしたり、主治医に状態の報告などをおこなっている。	かかりつけ医は、症状に応じて継続している。協力医と歯科医の往診は、希望する利用者が受診し、症状や服薬状況を、医師に伝え、往診結果は関係者で共有している。急変時の対応は、近くの総合病院と連携をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日利用者のバイタルを測定し、体調の変化や職員からの気づきを看護師に報告し、適切な看護が提供できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換はこまめにおこない、認知症の方は早期に退院できるように、協力体制を整えて関係作りをおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、看取りの時期には早くから家族と十分話しあい、家族が望まれる生活ができるように支援している。	重度化と終末期の方針は、契約時に本人・家族に説明している。段階に応じ、話し合いを重ね、事前指示書を交わしている。協力医とは、24時間の連絡体制をとり、家族の協力を得て、終末期の対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで急変時の対応などを学習している。また消防署内の研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練をおこなっている。夜間想定や初期消火、通報訓練をおこなっている。	災害訓練は、消防署立ち会いの下、夜間を想定して実施をしている。初期消火、通報を行い、重度者の避難は想定にとどめている。法人合同の組織と連絡網を整え、備蓄は最小限確保し、地域の防災訓練には、職員が参加をしている。	全職員への緊急連絡は、一斉送信を検討している。加えて、地域の役職者(運営推進会議の委員等)へも、同様の仕組みづくりに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の介護の中で、業務が忙しい場合であっても、一人ひとりの人格を大切に接し方を心がけている。言葉遣いなど、職員間で気づきを報告したり、見直しをしている。	日々のケアの中で、慣れ合いにならないよう努め、一人ひとりの個性や習慣、こだわりを受け入れ、笑顔で接している。入浴やトイレ介助では、羞恥心に配慮し、話しかけるときは、視線を合わせて声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当やケアマネが訪室し、本人の希望が引き出せるように会話を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や状態を考慮し、一人ひとりのペースに合わせた支援をこころがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備を利用者と共におこなったり、好みの衣類を希望された時は家族に依頼したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、出来る範囲で手伝っていただいている。手作りおやつや、誕生日会のおやつ、季節の料理(ほう葉寿司や梅干し作り)などを一緒におこなっている。	食事は、できるだけ本人の嗜好に合わせ、嚥下機能に応じた形態を工夫している。職員は、重度者の介助に専念し、ゆっくりと時間をかけて介助し、同時に、食欲や噛み具合、満足感を観察している。	食事の味付けや柔らかさ、温かさなどが分かるように、職員も一緒に食べる検食制度(試食)の導入に期待をしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録に記入し、体調の変化を把握している。嚥下状態や義歯の状態に応じて食事形態を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による定期的なチェックや、アドバイスをもらい、口腔ケアをおこなっている。		

岐阜県 グループホーム ファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表より把握し、個別に必要な支援をおこなっている。日中は言葉がけに注意しながら早目に誘導し、失禁を減らしていくなど、一人ひとりの自立に向けて支援している。	個々の排泄パターンに応じ、早めの誘導で、自立につなげている。おむつやパッドの使用は、その人の状態に合わせて使い分け、削減に努めている。夜間は、3時間ごとの体位変換時に確認したり、声かけをして、トイレへ促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握しながら、指示に基づいて内服薬や座薬などを使用している。乳製品の提供をして、便秘予防への対応をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉に入っている。季節にあわせてのゆずや菖蒲などを使用して、入浴を楽しんでいただいている。	浴室、浴槽は、元の温泉設備そのままである。入浴は、週に3回であるが、希望にも応じ、単身または複数の入浴を支援している。気分が乗らない人には、日を変えたり、促し方を工夫し、ゆったりと長風呂を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の換気、清掃などには注意をし、いつでも気持ち良い居室にて休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の飲み忘れや、誤薬がないように、スタッフ同士で確認するようにしている。また薬情などをファイルにいれいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる事を職員と一緒にこなったり、散歩やカラオケなど、本人の意向に沿って気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は少しの時間であっても屋外に出て、外気にふれるようにしている。また季節の花、草木がみられるように計画を立て、ドライブなどで外出している。	利用者全員が、屋外での外気浴を日課にしている。季節の花見や紅葉狩り、近郊のドライブは、年間計画で実施している。また、希望者で、図書館や老人会、交流会館の催事に出かけている。	



岐阜県 グループホーム ファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には移動販売やパン屋さんにて買い物をして支払いなどができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用したりしている。郵便箱を設置し、切手やハガキの販売もおこない、自由に利用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や安全には注意を払い、四季を感じていただけるように花や壁絵などで、明るい雰囲気を感じていただけるようにしている。	共用の間には、季節感のある貼り絵の作品やぬり絵、絵画などを飾っている。利用者が思い思いにくつろげる場所や椅子があり、ゆったりと過ごしている。空気清浄器を設置し、清掃が行き届いた居心地のよい快適な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子から椅子に変えるなどして、ゆっくり休んでいただけるようにしている。気のあった利用者同士で座っていただけるように座席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジカセなどを持ち込んだり、家族写真などを飾っていただき、居心地良くすごせるように工夫している。	利用者の見当識障害にも配慮した表札がある。居室は、洋室と和室があり、それぞれ整理整頓し、ゆとりの空間を確保している。家族の写真や見やすい時計、カレンダー、テレビ、表彰状など、好みに配置をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場面に対し、段差をなくしたり、手すりを設け、安心、安全である環境づくりをおこなっている。		